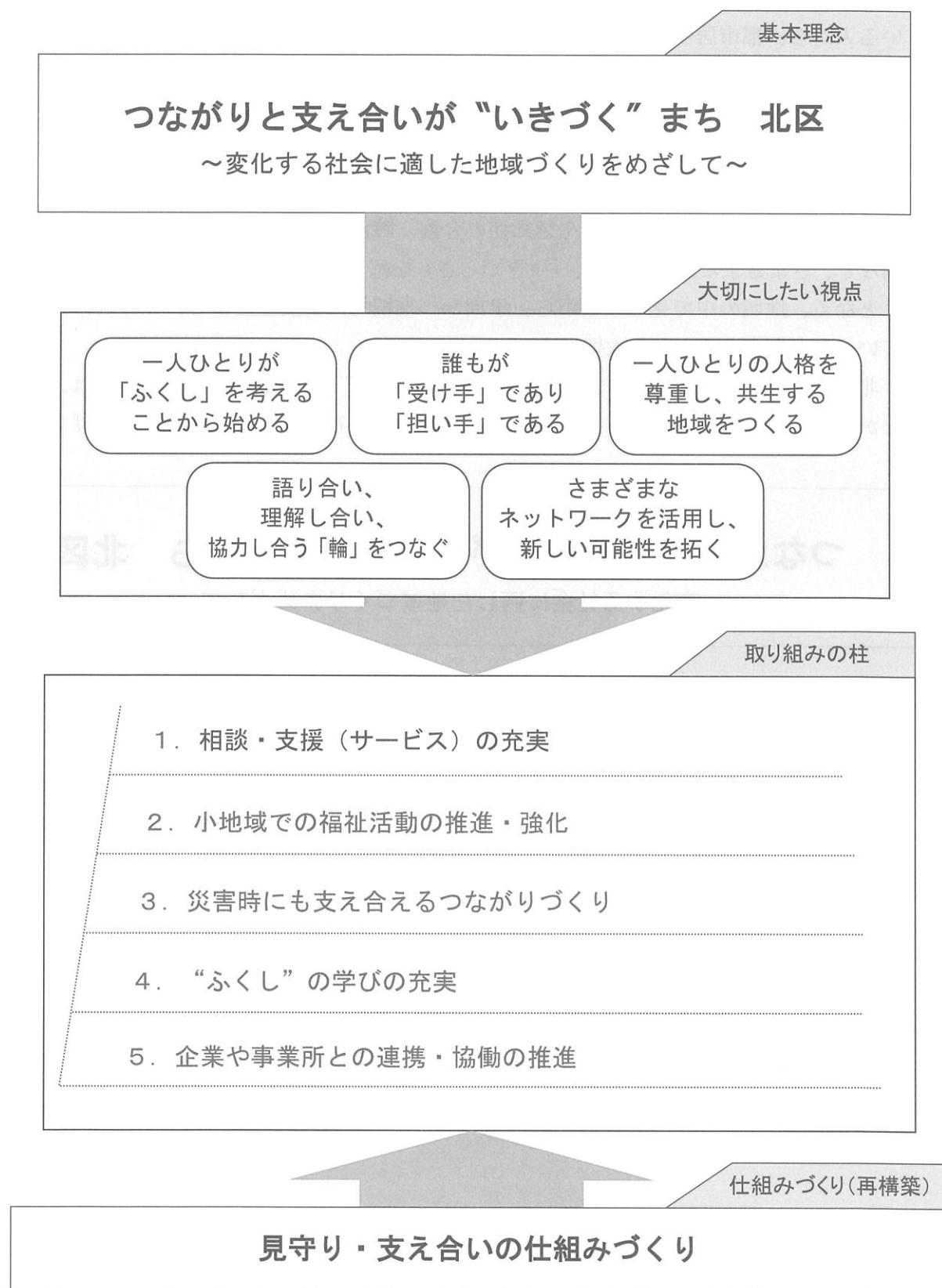


第2章 地域福祉の基本方針



1. 基本理念

生活の利便性が高い北区には、ここで生まれ育ち、地域に愛着をもって暮らし続けている人から、都市居住地としての魅力に惹かれて転入してきた人、仕事の関係で転入してきた人など、多様な価値観やライフスタイルの人が暮らしています。

生活する上で何かしらの支援が必要になっても住み慣れた地域で暮らし続けること、生活の中で起こりうる「困りごと」「生活のしづらさ」に社会的な支援を受けつつ前向きに対応して、自分らしく生きていくことは、誰もが願うことです。

また、子育ての不安、高齢者や認知症の介護、障がいのある人の社会参加、経済的困窮など、さまざまな課題を抱え、「生きづらさ」を感じている方々が、社会から孤立することなく、地域の中で見守りながら、早期かつ継続的に支援を実施し、主体的に自立していくことを支えることも大切です。

北区をめざす“安全、安心で、誰もが住みよいまち” “一人ひとりが尊重され、みんなが暮らし続けたいと思えるまち”を実現するために、次のような基本理念を掲げます。

つながりと支え合いが “いきづく” まち 北区

～変化する社会に適した地域づくりをめざして～

2. 大切にしたい視点

基本理念のもと、次のような視点を大切に、北区における地域福祉を推進します。

◆ 一人ひとりが「ふくし」を考えることから始める

「ふくし」を考えると、㊦だんの、㊧らしの、㊨あわせを考えるということです。人は、誰でも安心して、自分らしく生活を送ることを望んでいます。そのために、家族や友人など身近な人との暮らし・関係づくりとともに、住んでいる地域、いろいろな立場の人と意見を共有することが大切です。一人ひとりが関心をもつことから「地域福祉」が始まるという視点を大切にします。

◆ 誰もが「受け手」であり「担い手」である

地域福祉では、区民一人ひとりが互いの人権を尊重する意識のもと、共に生き、共に暮らせる地域をめざす仕組みづくりが重要です。そのためには、誰もが自分で解決できないことについて地域福祉の「受け手」となるとともに、それぞれにできることで誰かを支える「担い手」となることができるという視点を大切にします。

◆ 一人ひとりの人格を尊重し、共生する地域をつくる

地域には、人との付き合いやコミュニケーションが難しく、地域などとのつながりが希薄な人もいます。生きづらさを抱えている人が社会的に孤立しないよう、地域と行政と専門機関等が連携して、課題を共有し、見守り、寄り添い、主体的に自分らしく生きることを支援していく地域づくりを進めていくという視点を大切にします。

◆ 語り合い、理解し合い、協力し合う「輪」をつなぐ

さまざまな立場の人が集まり、語り合い、お互いを知り合い、個性を理解し合うことが大切です。その中で、課題と目標を共有し、それぞれの人がもつ強みを生かし合うことが重要です。人と人をつなぎ、多様な課題に主体的に関わる人、協働する仲間を広げていくという視点を大切にします。

◆ さまざまなネットワークを活用し、新しい可能性を拓く

「福祉」の分野のみならず、さまざまな分野での活動・取り組みや、行政や専門機関の仕組みなど、社会にはさまざまなネットワークが構築されています。これらを有効に活用して、今ある課題に立ち向かう新たなネットワークを生み出し、課題解決の可能性を拓くという視点を大切にします。